

Sun Mainframe To Open



**Sunは、メインフレームのオープン化に対する
さまざまな壁を取り除き、変化に応じて成長しつづける
ビジネス基盤の構築をお手伝いします。**

コスト削減や新たなビジネス機会の創出などが課題となっている昨今、
メインフレームのオープン化の必要性は誰もが認めるどころです。
しかし、オープン化の決断は企業の行く末を決める重要な決断であり、
いざ実行しようとするとしかるべきステップを踏む段階で乗り越えなければならない壁に直面します。

Sunは、オープン化の各段階に存在するさまざまな壁を取り除き、
お客様とともにスムーズにメインフレームの改革を実現する具体的手段を体系化し、

Mainframe To Openソリューションとして提供しています。

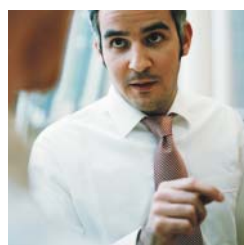
なぜメインフレームのオープン化が必要なのか。

Sunは、トップの方々がプロジェクトの動機付けとなる理由を明確化し、
オープン化により変革する姿、そして変革までの道のりを示すお手伝いを含め、
変化に応じて成長し続けるビジネス基盤とともに構築していきます。

オープン化の必要性を提示し、変化への道筋をつける。
Sunは、そこからお手伝いします。

メインフレーム = 悪ではない。
では、なぜオープン化が必要なのか。その出発点が重要。

例えばコスト削減をテーマに掲げ、メインフレームのオープン化を行う企業も多く存在します。しかし、コスト削減だけに目を奪われると、オープン化の動機付けを見失うこともあります。実際、メインフレームは自社のビジネス・ロジックに最適化されており、業務が円滑に遂行されている場合、コストだけを理由にシステムを変更することに抵抗を感じる方も少なくないはず。メインフレームのオープン化を成功させるカギは、現状のメインフレームの問題点を顕在化させると同時に、将来のビジネス基盤のあり方を定義していく必要があります。Sunはさまざまなプログラムやテクノロジーなどの組み合わせにより『Assess & Adjust』つまり環境整備と最適化を行い、包括的なソリューションを提供します。





オープン化がもたらすメリット

高コスト体質からの解放

多くのベンダーが撤退したことにより、メインフレーム市場は寡占状態となってきています。そのため、ユーザの価格交渉力は弱まり、高額なライセンス費用や保守費用を支払い続けることとなります。また、メインフレームのサポートの終了とともに、同一ベンダーのアップグレードを促すケースもありますが、この移行には数億円規模の費用がかかるとも言われています。メインフレームをオープン化すれば、年間のライセンス費用など運用コストを大幅に削減することができます。

容易なアプリケーションの開発

2007年問題の呼称で危惧されている、技術者(エンジニアリング・リソース)の減少は、今後も深刻化すると見られています。メインフレームを維持し続けても、エンジニアリング・リソースは減少する一方なので、新規アプリケーションの開発が難しくなる恐れがあります。オープン化を行えば、Java™テクノロジーなどの最新の技術を使い、豊富な開発者の手で新規アプリケーションを低コストかつ容易に開発することができます。

共創基盤の構築

ライバル会社どうしが基本部品を共通化しコスト削減を行うなど、ビジネスは競争一辺倒の時代から、共創して競争する時代へと変化しつつあります。オープンな基幹サーバであれば、容易に連携を行うことができビジネスの決断を妨げることはなく、企業間連携における共創基盤として機能します。

Sun Mainframe To Openのソリューション体系

Mainframe To Openソリューションは、お客様のメインフレーム環境に即したオープン化を行うために、3つのソリューションを用意しています。お客様の負担が最も少ないリホストを核に、それぞれを組み合わせることで個々の環境と個別のビジネス・ニーズに応えます。例えば、一部のメインフレーム・アプリケーションだけを残して、オープンなビジネス・アプリケーションを新たに導入することも可能です。企業ごとに異なるさまざまなニーズに、柔軟に対応することができます。また、オープン化においては導入決定から運用開始にいたるまでさまざまな壁が存在します。例えば、人の思考は視覚に影響されやすいため、ビジネス・ロジックが変更されていなくてもインタフェースのデザインが変わっているために抵抗を覚える方もいます。Sunは、そうしたヒューマン・ケアのためのワークショップも含めて変化の動議付けを行い、さまざまな角度からスムーズなオープン化を支援します。

リホスト(Rehost)

メインフレーム上のアプリケーション資産をSolaris™オペレーティングシステム上に移行することで、データやアプリケーションをそのまま活用できます。既存のアプリケーションを機械的にリコンパイルすることで、コストとリスクを抑えながら、今日まで開発した資産を保護し、オープン化を実現。お客様に多大なる価値を提供するSun独自のソリューションです。

>>> 詳しくは次ページへ

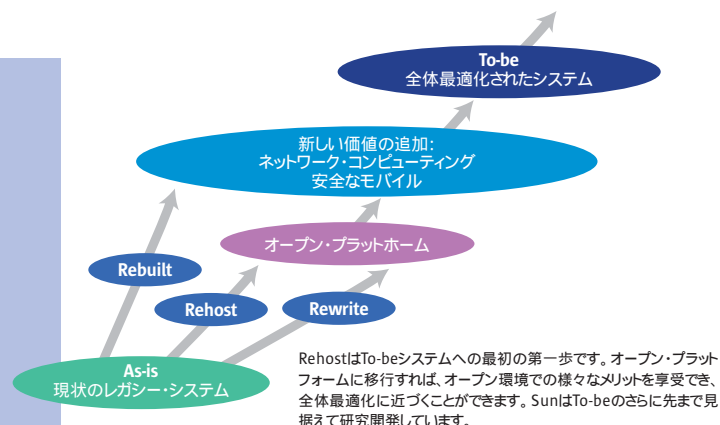
リライト(Rewrite)

メインフレームのアプリケーション・コードをSolarisオペレーティングシステム上で活用できるように、新たな言語で書き換えます。これにより、アプリケーションを継続的に利用でき、ビジネス・ロジックも維持できます。

リビルド(Rebuild)

メインフレームのビジネス・ロジックを全面的に変更し、オープン・システムに移行します。

全体最適へ

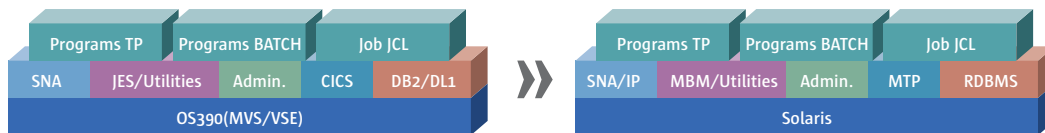


リホストのメリット

～ビジネス・ロジックも、アプリケーション・コードも変更不要

メインフレーム・アプリケーションをリプレースするではありません。リホストするのです。

従来、メインフレームのオープン化といえば、多大な初期投資とビジネス・ロジックの変更をとまなうものでした。リホストは、ビジネス・ロジックやアプリケーション・コードを変更せず、リスクも最小限に抑えます。米国大手調査会社であるStandish Groupがミッションクリティカルなアプリケーションとテクノロジーについて、2,000以上のTCO分析、30,000以上のリスク・アセスメントを行った結果、Sunのメインフレーム・リホスティング・ソフトウェアとSunのサーバは、メインフレームに替わる魅力的なものと評価されました。



【Rehost:ビジネス・ロジックの変更がない移行例】

ITコストを削減できます。

リホストすることにより、最大で70%のハードウェア / ソフトウェアについてのメンテナンス費用を削減することができます。Sunのリホスティング・ソフトウェア・ライセンスは一度ご購入いただければ継続してご利用いただけます。ハードウェアについても、Sunのサーバは同等の性能を持つメインフレームに比べ、約25-50%も低価格で、コスト・パフォーマンスに優れています。

メインフレーム・アプリケーションへの投資を保護します。

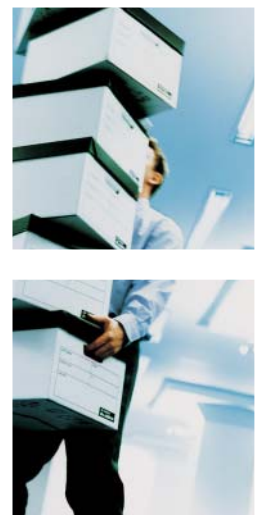
リホストに伴い、ビジネス手順やプロセス、メインフレームのスキルに対する投資を犠牲にすることはありません。例えば、アプリケーションのユーザ・インタフェースは通常、変更がありません。また、価値あるメインフレームのスキルを新たなUNIX®オペレーティングシステム上で利用できるため、開発スタッフは今後も、COBOLやPL/1, C, BMS maps, JCLやその他の言語で開発を行うことができます。このように、ほとんどの従業員の方にとって、直接的な影響を与えずに、リホストを行えます。

今後のビジネス・ニーズに柔軟に対応。

オープン・システムへ移行することにより、柔軟性と即応性が向上します。オープン・システムにおけるエンジニアリング・リソースは今後も増加が予想され、新規アプリケーションが開発しやすくなります。また、新しいビジネス要件に応じて貴社のIT部門は、柔軟に、かつ迅速に対応することができます。

同一プラットフォームにて、メインフレームとネットワーク・アプリケーションを実行できます。

メインフレーム上では多くの基幹業務システムが稼動していますが、販売データ、在庫データや顧客データといった経営戦略的なデータを扱うミドルウェアは、オープン・システムで稼動しています。これらを同一プラットフォームにて連携することにより、複雑性と運用コストを削減できます。



リホストの中核をなすMTP/MBMソリューション

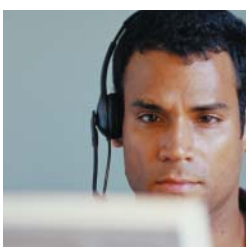
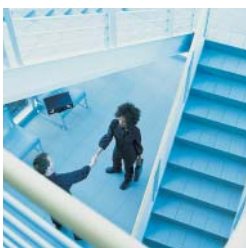
Sunでは、Sun Mainframe Transaction Processing(MTP)とSun Mainframe Batch Manager(MBM)ソフトウェアを用いることにより、メインフレーム・ベースのアプリケーションを、より低価格で高性能なSunのサーバ上で実行することを可能とします。

Sun Mainframe Transaction Processing(MTP)

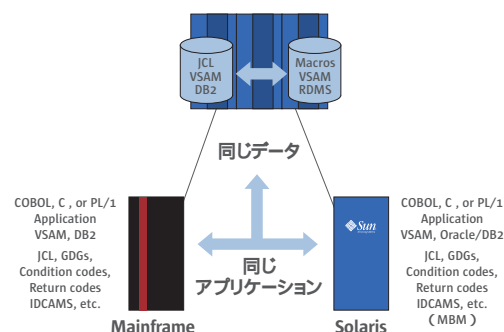
MTPは高い性能と信頼性を持つCICSアプリケーション管理システムを実現します。ソースコードの互換性を有効化する機能を備えているほか、各種の標準通信プロトコルを通じてメインフレームのデータやサービスへのアクセスを提供します。また、VSAMのファイル形式をUNIX上で活用することも可能となります。

Sun Mainframe Batch Manager(MBM)

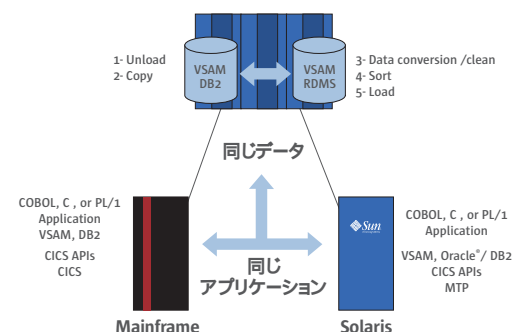
MBMはミッションクリティカルなバッチ環境をサポートするミドルウェアで、関連する各種バッチツールを統合するフレームワークの役割も果たします。JCL資産をそのままUNIX上へ移行し、実行することができるので、既存資産を無駄にすることがありません。



Sun Mainframe Batch Manager



Sun Mainframe Transaction Processing



Sunが提供するMainframe To Openソリューション

無料の適応業務要約フォームにて、オープン化への手順を提示します。

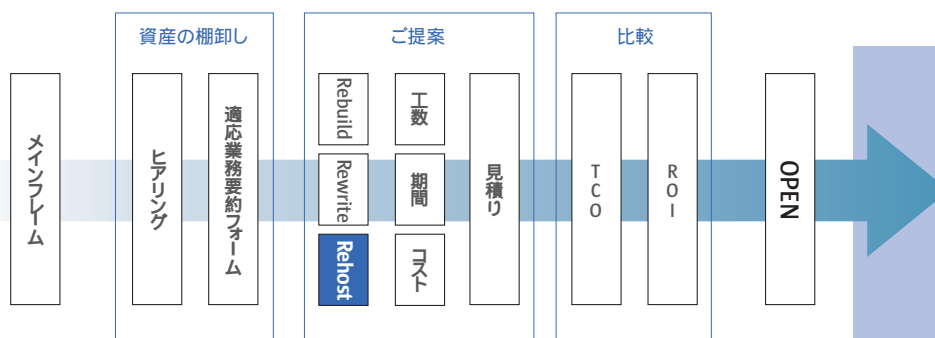
SunのMainframe To Openソリューションでは、適応業務要約フォームにより無料で見積りを作成し、移行のフレームワークを提示いたします。フォームは使用されているハードウェア、オペレーティングシステムのバージョン、VSAMやSequentialのファイル数、アプリケーション数、DC/DBの種類などを例にならって記入するのみです。これにより、どこから手をつければ良いかさえも分からなかったメインフレーム移行のための手順や必要となる作業が明確となり、移行のためのプロジェクトの規模感を把握することができます。

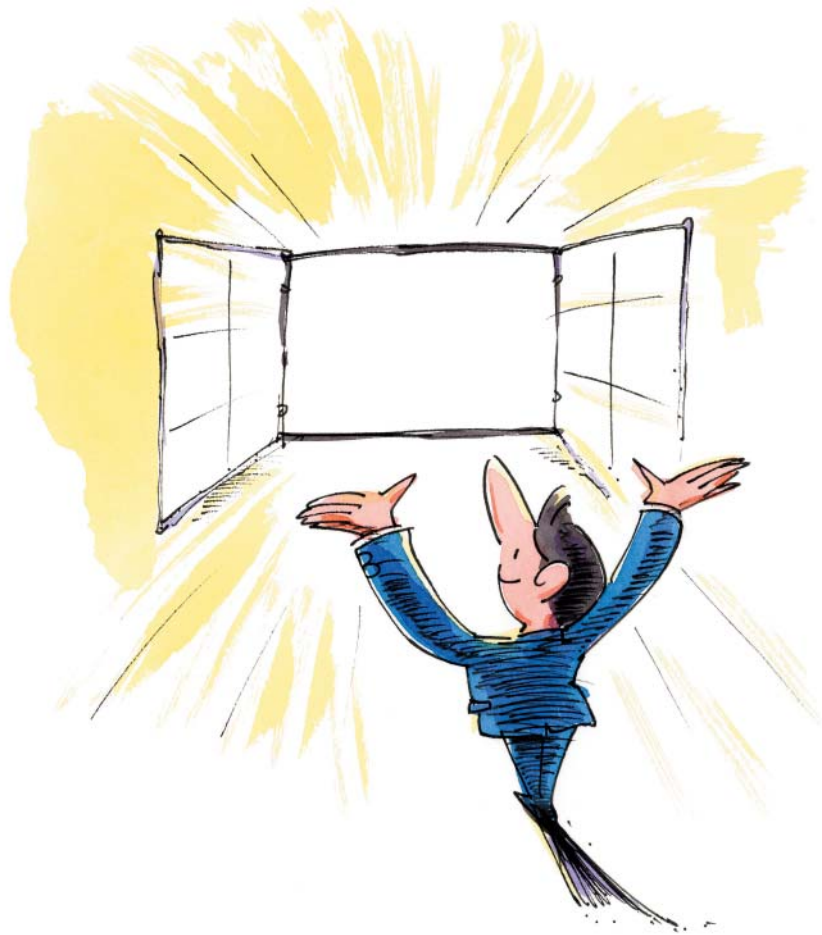
Sunではお客様のメインフレーム環境に応じたりホスティング・ソリューションを取り揃えております。

世界50カ国で1,200ライセンスの実績を誇るMainframe To Openソリューション。

Mainframe To Openは、メインフレームをオープン環境に移行し、既存スキルを利用しながら、サードパーティのパッケージ製品との統合を可能にします。つまり、最新のテクノロジーで従来のビジネス・ロジックを実現できるのです。すでに5億行のコードをメインフレームから移行し、全世界50カ国、1,200ライセンスの成功実績を誇っています。

Mainframe To Openソリューション提供の手順





お客様の課題を解決する、Sun Mainframe To Open
 詳しくは下記のメール・アドレスへお問い合わせください。

ソリューションに関するお問い合わせは MF20-Japan@sun.com

サン・マイクロシステムズ株式会社

本 社	〒158-8633	東京都世田谷区用賀4-10-1	SBSタワー	電話(03)5717 5000(代)
山王オフィス	〒100-6160	東京都千代田区永田町2-11-1	山王パークタワー12F	電話(03)4232 2400(代)
中 部 支 社	〒460-0002	名古屋市中区丸の内2 14 4	エグゼ丸の内507	電話(052)203 1233(代)
大 阪 支 社	〒541-0052	大阪市中央区安土町1-8-15	野村不動産大阪ビル5F	電話(06)6265 5700(代)
九 州 支 社	〒814-0001	福岡市早良区百道浜2-1-22	福岡SRPセンタービル3F 308	電話(092)834 0101(代)
つくば営業所	〒305-0032	茨城県つくば市竹園1-6-1	つくば三井ビルディング11F	電話(0298)51 2210(代)
豊田営業所	〒471-0833	愛知県豊田市山之手5-73-1	山之手ビル7F	電話(0565)25 5701(代)
ホームページ	http://jp.sun.com/			



© 2004 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. Sun, Sun Microsystems, The Network Is The Computer, Solaris, Java は、米国 Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。 UNIX は、X/Open Company Ltd が独占的にライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。 ORACLE は米国 Oracle Corporation の登録商標です。本文中に記載の各社の社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

資料の内容は、お断りなしに変更することもありますのでご了承ください。

ADISBB04-00 0904/5K